

1001 心筋梗塞後血行再建例における ^{123}I -BMIPP、 ^{201}Tl -Cl心筋シンチの変化

有井 融, 成瀬 均, 福武 尚重, 森田 雅人, 高橋 敬子, 岩井 務, 宮城 順子, 大柳 光正, 岩崎 忠昭 (兵庫医大一内)
福地 稔 (兵庫医大核)

急性期に再灌流療法を施行し、約3カ月後に施行した冠動脈造影にて再狭窄を認めなかった心筋梗塞患者18例(平均年齢58歳)に対して急性期及び慢性期に ^{123}I -BMIPP、 ^{201}Tl -Cl心筋シンチを施行。BMIPP、Tlとも急性期に比べ慢性期に取り込みの回復がみられ、主として梗塞部心筋に認められた。また、Tlの回復の程度に比しBMIPPの回復の程度は少なかった。初期のTlとBMIPPの取り込みに差のある部位ではBMIPP、Tlの回復がみられ、TlとBMIPPの取り込みに差のない部位ではTlの回復がみられた。梗塞後再灌流された心筋におけるBMIPP、Tlの回復過程には差が認められ、心筋の脂質代謝障害の回復にはさらに期間を要するものと思われる。

1002 Tl再静注によるFill-in部位でのBMIPP集積に関する検討

松成一朗、西川高広、一柳健次 (福井県立病院 放)
滝 淳一、久田欣一 (金沢 核)

Tl再静注によるFill-in部位での脂肪酸代謝を評価する目的で、BMIPPを用いてその心筋集積を評価した。慢性虚血性心疾患で運動負荷Tlシンチグラフィでの3時間後像で持続性欠損を呈する31例259領域を対象とした。安静BMIPPは、静注20分後に撮像し、Tl再静注像(Tl-Re)と各領域で定量的に比較した。

Tl再静注でFill-inを示す94領域中75領域(80%)にてTl-Reに比しBMIPP集積の低下を認めた。一方、Tl再静注でFill-inを示さない165領域中でTl-ReよりもBMIPP集積の低下を認めたのは21領域(13%)のみであった。Tl再静注においてFill-inを示す部位での脂肪酸利用障害の存在が示唆された。

1003 ^{123}I -BMIPP心筋シンチグラフィによる高血圧性心不全の心筋代謝異常の検討

橋爪俊和、羽野卓三、太田明廣、大森久司、笹島久司、谷河浩二、馬場章、有田幹雄、西尾一郎、*山元和巳、*鳥住和民 (和歌山医大循環器内科、*同放射線科)

高血圧性心不全既往歴のある高血圧患者10例および心不全のない高血圧患者10例に ^{123}I -BMIPP心筋シンチグラフィを施行し心筋エネルギー代謝の特徴を検討した。心筋SPECT像を17区域に分割し視覚的集積度(0~3の4段階)を両群で比較した。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBIによる心筋血流イメージでは両群とも欠損区域は少なかった。心不全群では ^{123}I -BMIPPの総集積度スコアは有意に低下し($p<0.02$)、部位別集積スコアも前壁・側壁で有意に低下していた($p<0.02$)。高血圧性心不全の既往のある高血圧患者では虚血に先行して心筋エネルギー代謝の異常が存在している可能性が考えられた。

1004 狭心症における ^{123}I -BMIPP心筋シンチグラフィによる虚血検出の臨床的意義

井上征治、小林秀樹、岡俊明、住吉徹哉、笠貫宏、細田瑛一 (東京女子医大心研内科)

日下部きよ子 (同放射線)

不安定狭心症(UA)13例、安定狭心症(SA)25例を対象に安静または運動負荷Tlおよび安静BMIPP心筋シンチ(BM)を施行し、BMの虚血検出の臨床的意義をTlと比較しながら検討した。SPECT像からDefect Score(DS)を算出し、左室壁運動、冠動脈病変や臨床経過と対比した。DSはUAではBMが、SAではTlが有意に高かった。BMの集積低下はUA、SAともに壁運動異常部位に一致した。SAでは1枝或多枝症例にもBMのほぼ正常所見のものが認められた。BMの陽性は壁運動に影響を及ぼす虚血の重症度を示すと考えられた。

1005 ^{123}I -BMIPPを用いた虚血性心疾患における心筋脂質代謝の検討

高島重和、前田哲生、豊島博行 (箕面市立病院内科)
善積透、青山毅、山崎紘一 (同放射線科)、新井武志、山根光量、松沢佑次 (阪大2内)

健康心筋は通常そのエネルギーの殆どを脂質代謝に依存していると言われている。今回虚血性心疾患における傷害心筋及び残存心筋の脂質代謝を ^{123}I -BMIPPを用いて画像的变化、uptake, washout rate(WOR)の検討を行ったので報告する。WORは安静にて15分後と4時間後より求めた。対象は、健康者、急性心筋梗塞(発症後2週間後)、狭心症の症例。uptakeには有意差が見られなかったが、WORは健康者では9%、狭心症では11%とほぼ変わらないのに対し、急性心筋梗塞では20%と有意に高値を示し、残存する心筋はこの時期ではむしろ脂質代謝が亢進していると示唆された。

1006

心電図異常を指摘された検診者における心筋血流、代謝の検討(^{123}I -BMIPPおよび ^{201}Tl 心筋SPECTの対比)

村松俊哉、塚原玲子、丸山路之 (健康保険総合川崎中央病院循環器科) 岡田 正 (同内科) 高橋正彦、松本義勝 (同放射線科) 秋元奈保子、井上健彦、斎藤 徹、上嶋権兵衛 (東邦大学第二内科)

検診にて症状を有しない心電図異常を指摘された患者30例(PAC, PVC, LVH, ST change, ブロック)について、安静時BMIPPおよび運動負荷Tl心筋SPECTを施行しその取りこみ、両者の解離様式について検討した。得られたimageより心筋を各7segmentに分割し視覚的に0:正常~4:defectにscore化した。心電図異常をみるものの多くはTlおよびBMIPPともに正常を呈したが、中にBMIPPのみ低下している症例がみとめられ脂質代謝障害との関連が示唆された。